

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2014年5月30日

No.21

計画達成に向け努力した組合員への還元は当然。要求に応えよ！

～2014年度 夏季手当第3回交渉報告～

中央本部は、本日10時より第3回夏季手当交渉を行ない、席上要求の根拠を明らかにしました。

【要求の根拠】

- ①平成25年度は安全・安定輸送、収入確保に努力してきた結果、“四半世紀ぶりの好決算”を達成した。支払い能力は充分にある。
- ②その一方で我々は過去最低額の期末手当や15年連続ベアゼロという厳しい状態。この間の苦勞に報いるため、今手当において還元すべき。
- ③可処分所得の減少と公共料金の増額、消費増税など、組合員を取り巻く経済環境は厳しさを増すばかり。将来を不安視している組合員に対し会社経営陣は組合員の生活基盤を安定させる責任があること。
- ④今年度から中期経営計画2016がスタートし、鉄道事業の黒字化という必達目標に向けて我々も汗をかく決意だが、業務を担うのは我々組合員であり、その士気を高めることは会社の責務である。
- ⑤発足以降、厳しい時ほどJR貨物会社を支えてきたのは我々である。会社はこの事実を直視し、真面目に働く組合員に対して満額回答で誠意ある姿勢を示すべき。

会社：鉄道事業の黒字化は道半ば、全体を見て判断する！

○主な議論内容

- (会社) 5月30日現在の営業収入は対計画98.9%である。5月に入り第3週・第4週と少しずつ下降している。今年度は、動力費等の経費増が見込まれている。平成25年度は黒字決算だが、鉄道事業の黒字化の道半ばであり、手当に関しては全体を見て判断する。
- (本部) 会社は期末手当を業績給というが、平成25年度の好決算に対し、我々にどの様に成果を還元するのか。夏季手当にどう反映するのか。
- (会社) 夏季手当を考える上で、直近の決算も判断材料のひとつである。
- (本部) 夏季手当で還元していくことで良いか。
- (会社) それを含めて全体で判断していく。
- (本部) 経営陣や管理者の給与カットを止めたと聞かすが、一方では戻しておいて、我々だけに苦勞を強いるとはならない。
- (会社) 管理者のモチベーション問題もある。
- (本部) 組合員が「頑張るぞ！」という想いにならないと鉄道事業部門の黒字化は達成できないことを認識すべきだ。社員のモチベーションを向上させるのは期末手当である。経営陣は鉄道事業部門の黒字化をどう実現するのか。黒字の還元や将来展望が見えない中で我々だけ努力するとはならない。
- (会社) これまでの協力には感謝している。引き続き鉄道事業の黒字化に向けて協力はお願いしたい。
- (本部) 次回交渉において、①夏季手当に対する成果の考え方と、②鉄道事業の黒字化に対する経営陣の自助努力、③社員への還元の方法について具体的に明らかにすること。

(会社) 次回交渉において全て明らかにできるかどうか分からないが、考え方は明らかにする。
(本部) 我々の主張に対して全て明らかにできないというのは不誠実である。すべて明らかにするよう誠意をもって対応するべきである。
(会社) 組合の主張に対し、出し方含めて社内で検討し、次回の交渉で会社の見解を示す。

組合員のみなさん！鉄道事業部門の黒字化に向け会社は突き進んでいます。しかし我々だけが努力し、経営陣は自助努力が一切無しというのは整合性がありません。夏季手当交渉はこれから闘争ゾーンに入りますが、組合員のこの間の苦勞をないがしろにさせないために、会社姿勢を糾す職場からの取り組みを要請し、第3回の交渉報告とします。

次回 第4回交渉は、6月6日(金)です。